



地下世界への入り口。スナモグリやアナジャコなどの巣穴である。左下に私の手が写っているが、その指先程度の大きさだ。下ノ加江川の河口で撮影。

専門員
コラム

今井の 石の上にも三千万年



石だけじゃない！
専門員今井が愛してやまない地下世界の
住人たちの話

地下世界への入り口

海岸にはたくさんさんの生き物たちが住んでいる。彼らの邪魔をしないように、ジッと観察してみる。どこからかたくさんさんのカニたちが現れる。鳥たちがエサを探して歩いている。

小魚の群れが水面をキラキラと輝かせる。なんてたくさんさんの生き物たちがいるのだろうと思うはずだ。しかし、その認識は間違っていないが不十分である。足を元を見ながら砂浜を歩いてみる。

たくさんさんの穴が開いており、その周囲には小さな団子状の砂の塊が散らばっている。

これらはカニの巣穴だ。深さは最大で1メートル近くにもなる。続いて、潮が引いた頃を見計らって干潟に足を伸ばしてみる。

小さな砂山がたくさんあって、その頂上に穴が開いている。まるでミニチュア火山だ。

逆に窪みの底に開いた小さな穴もある。

この穴の中にいるのは何者なのだろうか。シャベルで掘り返してみても、おそらく巣穴の主と出会えない。

このキリで空けたような小さな穴の下には、私たちの想像を遙かに上回るであろう、複雑で広大な空間が広がっている。

巣穴の家主はスナモグリやアナジャコというエビに似た生き物だ。

彼らのつくる巣穴は時に深さ数メートルにおよび、複雑に枝分かれして、隣の巣穴と連結することもある。

そして、この巣穴には魚や貝、カニ、ゴカイの仲間からバクテリアに至るまで、たくさんさんの居候たちがいる。

さながら地下の高層マンションだ。自然の本当の豊かさは、この地下世界抜きには語れない。



大岐の浜で出会ったスナモグリの仲間。大きさは5cmほどで、エビに似ているが、白っぽくて半透明、片方の爪以外は軟らかい。英語ではゴーストシュリンプ（幽霊エビ）というらしい。

11/30,12/1
は産業祭！

ジオパークブース 出展します！

認定ジオガイドによる
ジオガイドツアー



いつも見ている
あの鹿島が
違って見える?!

日時：11月30日（土）13:00～14:00
12月1日（日）10:00～11:00

当日ジオパークブースにて受付
集合場所：鹿島公園駐車場
（受付後、各自で移動）
先着10名様
参加料金：無料 雨天中止
歩きやすい靴でおいでください。

土佐清水の大地の恵みが詰まった
ジオやき もあります。



ジオパークと科学
知るといろいろな世界が見えてくる
いきものの気配を感じてみよう！
「土佐清水の自然は豊か」とは言いますが、上の今井専門員のコラムで紹介したように、本当の自然の豊かさを知るためには、見えなところにいる生き物たちの気配を感じることも必要です。不思議なもので、人は関心があることや「見たい」と思っているものしか見えないもの。科学を通じて、土佐清水の本当の豊かさを知ってもらうために「自然の見方」をお伝えするのもジオパークの大切な役目です。
今井専門員が紹介したスナモグリという生き物、普段はなかなか出会えませんが、竜串海岸なら、スナモグリが生きていた気配を感じられます。右下の茶色いかりんとうのような物体、実はこれ、スナモグリの仲間の巣穴の化石なんです。ちょうど、気候も涼しくなると今、千数百万年前のスナモグリの生活に思いをめぐらしながら、海岸散歩をしてみたいかがでしょう。



竜串海岸で見つかるスナモグリ類の巣穴と考えられる生痕化石。分岐しているのがよく分かる。

